

【福岡女学院教会 主日家庭礼拝】

2024. 12. 22.

アドベント第4主日 クリスマス礼拝

降誕前 第1主日

黙 想 (黙 禱)

招 詞 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった」
という言葉は、確実で、そのまま受け入れるに足るものである。
(『讃美歌21』93-1-21)

讃美歌 262 (聞け、天使の歌)

主の祈り

讃 詠 83 (聖なるかな)

聖 書 マタイによる福音書 1章18節～23節
(新約 1頁)

信仰告白 使 徒 信 条

メッセージ 「イエス・キリストの誕生」 多田玲一牧師

祈 禱 ※それぞれ自由にお祈り下さい

讃美歌 265 (天なる神には)

頌 栄 27 (父・子・聖霊の)

黙 想 (黙 禱)

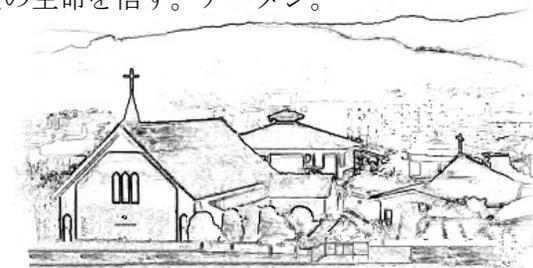
◎ 讃美歌は歌詞を読むだけでも結構です。

【主の祈り】 (『讃美歌21』93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあげさせたまえ。
み国を来(きた)らせたまえ。
みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。
我らの日用(にちよう)の糧(かて)を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、悪より救い出(いだ)したまえ。
国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。
アーメン

【信仰告白 使徒信条】 (『讃美歌21』93-4-A)

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがへり、
天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、
かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、
身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。アーメン。



日本基督教団 福岡女学院教会

牧 師 多田玲一

協力牧師 青木麻里子、大島一利

〒811-1321 福岡市南区柳瀬1丁目41-32

TEL 092-591-5627 (Fax 兼)

教会ホームページ [http:// www.fukujoch.com/](http://www.fukujoch.com/)

(教会創立 1946年6月2日)



1 2月22日 マタイによる福音書 1章18節～23節

◆イエス・キリストの誕生

- 18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。
- 19 夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。
- 20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。
- 21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」
- 22 このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。
- 23 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」
この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

※聖書は本文は全て、日本聖書協会『聖書 新共同訳』